

UDC

UDC は、Universal Decimal Classification の頭文字をとったもので、国際十進分類法と称する図書、文献などの分類表である。ドイツ語では Dezimalklassifikation と呼び、DK と略称する。またフランス語での略称は CDU である。日本では UDC の略称が広く使われている。

ユニバーサルという語は「普的な」といった意味をあらわし、あらゆる概念、部門を包含することから名付けられた。直訳では普通十進分類法とでもいうべきだが、国際性の故をもって「国際」を正式名称とした。

デシマルは、主たる表現手段として十進数字を用いていることによる。十進分類は、記号と構造が単純平易で理解しやすい、無限に展開できる、記号の桁数で概念の大小が明らかである等の反面、すべての知識を機械的に9区分(0は普通除く)するために、体系が不合理となる、同位の数字が9区分で使用されると、新主題の挿入が困難等の指摘がある。

クラシフィケーションの手段としての UDC は、本質的には列挙型の分類法である。知識の普遍性を包含することを目的とするために、主分類表で詳細な展開を行うと同時に、各種の補助分類表を用いて、精密な分類を可能にしているので、科学技術論文等の専門的に細分化された文献の分類に適している。

全世界の気象機関で構成されている WMO (World Meteorological Organization) では、その技術規則 (Technical Regulation) の中で (Chapter B・1)、気象部門の書誌や刊行物に UDC の 551.5 部門を使用することを規定している。

UDC は、1895年ブラッセルで開催の国際書誌会議の結果設立された国際書誌学会が、書誌作成のため、DC (デュイ十進分類法、1876年初版) を国際的に拡充したことに始まる。現在管理は、国際ドキュメンテーション連盟 (FID) が当たっている。日本では、1955年に簡略1版が発行され、1968年に改訂第3版がでた。最近中間版が発行された。これは簡略改訂版4版を兼ねるもので、収録数は簡略版の80%増となっている。発行所は、日本ドキュメンテーション協会である。

UDC の0部門は一般事項・総記、1部門哲学、2部門宗教・神学、3部門社会科学、5部門数学・自然科学(551.5気象学・気候学)、6部門応用科学・医学・工学・農学、7部門美術・写真・音楽・娯楽・スポーツ、8部門言語及び文学、9部門地理・伝記・歴史である。最近4部門言語を8部門文学に移したので4部門はなくなった。日本の図書館界では日本十進分類法 (NDC) が普及している。この4部門は自然科学であり、気象学は451に分類されている。(八田琢哉)

学生会員の申請について

在学中の会員で定款第6条の学生会員として会費の割引を受けたい者は、4月30日までに在学証明書を添えて理事長に申請してください。申請がないときは学生会員としての特典が認められません。

なお、昨年手続きをした会員も、改めて申請が必要です。また、50年分の会費を学生会費で前納された者も在学証明書を出してください。